

平成29年度国有林モニター会議を開催

～熊本地震からの復興・レクリエーションの森・再造林の低コスト化～

国有林モニター会議は、現地視察や意見交換を通じて、国有林モニターの皆様にも国有林の取組をご理解いただき、国有林をより身近な存在として認識していただくとともに、いただいたご意見を国有林野の管理経営に役立てることを目的に、平成16年度より毎年開催しています。

今年度は、国有林モニターの方々に事前に実施したアンケート調査の結果及び、九州森林管理局の重点取組事項として取り上げている課題を踏まえ、「熊本地震からの復旧・復興とレクリエーションの森の取組」、「再造林の低コスト化の取組」をテーマにそれぞれ開催し、現地視察及び意見交換会を実施しました。

★国有林モニター会議@菊池市

日時：平成29年11月11日9:15～16:15

開催場所：熊本県菊池市

出席者：国有林モニター19名

九州森林管理局・熊本森林管理署

視察内容：治山事業（県道45号崩壊箇所・菊池溪谷内）

震災からの菊池溪谷の復旧状況

・県道45号崩壊箇所の治山事業

熊本地震により崩壊した県道45号で、熊本森林管理署が行っている治山事業を視察し、森署長より、山腹崩壊した県道45号の工事内容及び復旧状況を説明しました。

今回の工事ではロッククライミングマシンを使用しており、モニターの方からは現場で作業している写真を見て、驚きの声が上がりました。



(写真1) 治山事業現場を見ながら説明



(写真2) 工事内容を写真で説明



(写真3) 山腹工の状況（落石防護ネット工）

・震災からの菊池溪谷の復旧状況

熊本地震により、菊池溪谷は落石や山腹の崩壊等により、平成29年11月現在も閉鎖しております。

菊池溪谷は、熊本県の中でも有数の観光地であり、年間20万人もの観光客が訪れており、地域の重要な観光資源となっています。

また、菊池溪谷は優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察を楽しんでもらえる森林として

レクリエーションの森（くまもと自然休養林）に設定されております。

今回の視察では、森署長より、当時の被害状況の写真と現在の復旧状況を比較しながら説明し、菊池渓谷の再開に向けた取組を紹介しました。



(写真 4, 5) 菊池渓谷内の復旧状況



(写真 6, 7) 菊池渓谷内で説明

・意見交換会

冒頭、森署長より菊池渓谷と菊池渓谷を通じた国有林と地域との関わりを説明後、菊池渓谷の再開に向けて利用者目線で必要な取組はないか、また、各県にあるレクリエーションの森がどのような管理がなされていけば足を運びたいかというテーマで意見交換会を行いました。

モニターの皆様から、「復興が想像していたよりも進んでいた。」「電線・電柱、土のうなどは景観を損ねるので配慮して欲しい。」「多言語標記や外国人観光客を案内できる人がいたらいい。」など、様々な視点からご意見・ご感想をいただきました。



(写真 8, 9) 意見交換会の様子



(写真 10) 菊池渓谷内で集合写真

★国有林モニター会議@人吉市

日時：平成 29 年 11 月 18 日 10：45～15：15

開催場所：熊本県人吉市

出席者：国有林モニター 5 名

九州森林管理局

森林技術・支援センター

視察内容：次世代造林プロジェクト試験地

シカ被害対策について

・次世代造林プロジェクト試験地

木材価格の下落により、山元に還元できる資金が減少、加えて九州においてはシカによる森林被害が激増していることから、民有林においては再造林放棄地（伐採後、植林しない人工林）が増加しています。

また、森林整備に要するコストは植栽、下刈り等の初期段階が大半となっており、国有林野の管理経営や民有林において、低コストで効率的な施業が普及・定着するように取り組むことが必要となっています。

このような背景から、次世代造林プロジェクトとして熊本南部森林管理署管内に「低コスト造林実証試験地」を設置しており、造林に関して低コストにつながる様々な試験区を団地化しています。今回のモニター会議では、本試験地を通じて、国有林で取り組んでいる造林の低コスト化に向けた技術開発についてご紹介しました。

現地では森林技術・支援センターの山下所長、古川副所長より、それぞれの試験地に設置されている看板を用いて、現地の状況を実際に見ながら説明しました。



(写真 12) 試験地の状況（ツリーシェルター）



(写真 13) 生育状況の説明



(写真 11) 看板を使って説明

・シカ被害対策について

冒頭、森林技術・支援センターの古川副所長より、シカ被害対策として行っているくくり罠やほこ罠の説明を、実際に捕獲されたときの動画等を用いて説明しました。

また、森林技術・支援センターで開発した巾着式あみほこ罠の実演を行いました。巾着式あみほこ罠は従来の鋼鉄製ほこ罠に比べ軽量化されているため、設置場所の自由度が向上しており、資材費も鋼鉄製と比べ非常に安価というメリットがあります。今回はモニターの方にシカ役になっていただき、どのようにシカを捕獲するかを実演しました。



(写真 14) 巾着式あみほこ罠の設置方法の説明



(写真 15) 巾着式あみほこ罠の実演

・意見交換会

意見交換会では試験地を視察して、改善点や感想などを伺いました。モニターの皆様からは、「自分が住んでいる近隣の山は伐採が進み、再造林がされていないところもある。今回の試験地で視察したことを持ち帰って勉強したい。」

「新しい技術を知る良い機会だった。」「シカ被害についてよく理解できた。今回視察したことを、知らない人にも広めていきたい。」など、様々なご意見、ご感想をいただきました。



(写真 16, 17) 意見交換会の様子



(写真 18) 試験地で集合写真

～国有林モニター会議を終えて～

今回の国有林モニター会議では、上記で紹介したご意見・ご感想の他、国有林モニター制度や森林に対する思いなど各モニターから多くの発言がありました。普段、職員の視点ではなかなか気づくことができない点多かったと感じております。国有林モニターの皆様からいただいた貴重なご意見やご感想は、今後の国有林野の管理経営に活かしてまいります。モニターの皆様におかれましては、ご参加いただきありがとうございました。